

国際産学連携拠点に関する検討会

第4回会議(H27.2.13)における福島県説明資料

国際産学連携拠点について

- 学術的基盤の整備と、世代を超えて様々な分野の研究者や技術者を育成することにより、浜通りの復興をリードしていく体制を整備。これにより、浜通りにイノベーションを興し、新たな産業基盤を構築。

① 国際的な産学官共同研究室

- 廃炉等の技術開発には、国内外の原子力関係をはじめとする研究機関や関連産業の英知の結集が必要。
- そのためには、廃炉のみならず、廃炉を支える基礎的・基盤的な研究を実施できる共同研究室を設置し、国内外の研究者を継続的に駐在させることが必要。
- 研究テーマとしては、廃炉等に特化したもののほか、ロボット技術、汚染環境調査、環境回復、農林水産業の復興、住民の健康確保につながる医学などが考えられる。

② 大学教育拠点

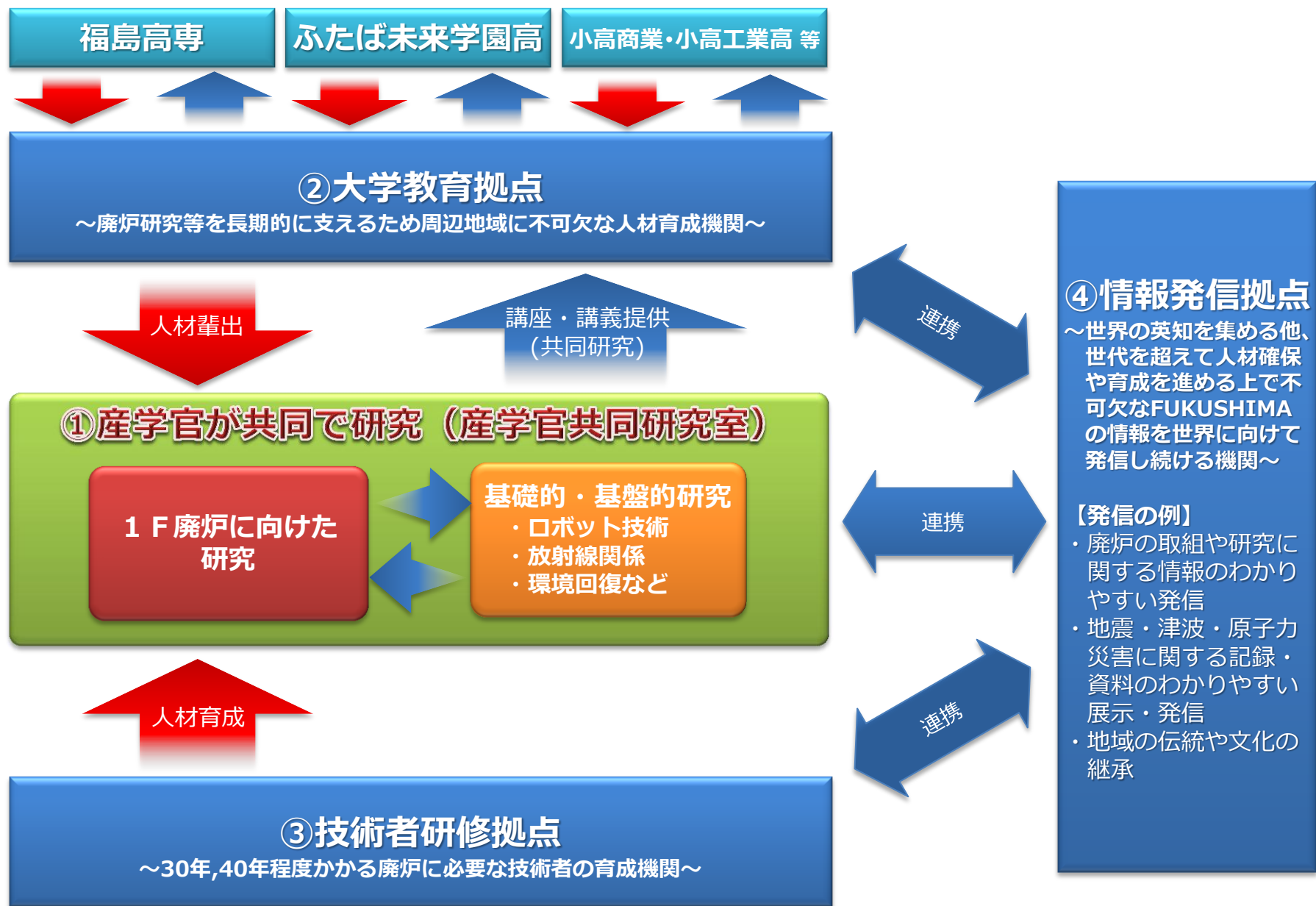
- 長期にわたる廃炉等の研究を支えるための人材供給・育成を継続的に行う教育拠点が周辺にあることが不可欠。
- 例えば、産学官共同研究室に参画する大学や福島県内の大学の教員や技術職員が駐在し、実践的な研究指導・講義を行う教育拠点整備が必要。
- 参加大学(東京大、東工大、東北大など想定)が授業の共有や単位互換を実施。福島県内の高等教育機関、企業とも連携。
- 福島高専や双葉郡内に開校する中高一貫のふたば未来学園高校や小高商業・小高工業高校を始めとする地元の教育機関とも連携。

③ 技術者研修拠点

- 30~40年程度と長期の作業が見込まれる廃炉に携わる技術者の計画的・継続的な確保が必要。
- 福島第一原発の廃炉現場も活用しながら、国内外の原子力発電所関係の技術者(運転員、指導的役割の技術者等)に対し、廃炉技術に関する研修を行うことが必要。

④ 情報発信拠点

- 原子力災害は、長期的な対応を余儀なくされることから、世代を超えてFUKUSHIMAに心を寄せ現状を理解する人材や企業を確保することは不可欠。
- そのためには、国内外の多様な世代に対し、廃炉の取組や研究の動き、災害の経験・教訓・経緯などを、整理・調査してまとめ、わかりやすく世界に発信することが重要。
- このことは、地震・津波・原子力災害という未曾有の複合災害に見舞われ廃炉に取り組む日本の責務。
- 記録や資料の収集・保存、調査・研究、情報発信・展示、教育・交流・人材育成、地域の歴史・文化の継承の機能を有する拠点が必要。



中間省略(3~9頁)

【構想の概要】

～国際産学連携拠点に関する検討会(第1回・H26.11.6)資料をもとに県において整理～

- 原子力災害は、長期的な対応を余儀なくされることから、世代を超えてFUKUSHIMAに心を寄せ現状を理解する人材や企業を確保することは不可欠。
- そのためには、国内外の多様な世代に対し、廃炉の取組や研究の動き、災害の経験・教訓・経緯などを、整理・調査してまとめ、わかりやすく世界に発信することが重要。
- このことは、地震・津波・原子力災害という未曾有の複合災害に見舞われ廃炉に取り組む日本の責務。
- 記録や資料の収集・保存、調査・研究、情報発信・展示、教育・交流・人材育成、地域の歴史・文化の継承の機能を有する拠点が必要。

【施設のミッション①】情報発信・展示・交流（展示・交流エリア）

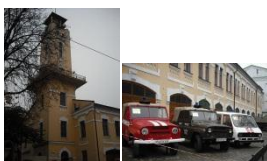
- 世界に向けた“FUKUSHIMA”の記録と記憶、そして「現在」「未来」の発信・体験を通じた継承
 - 廃炉の研究や取組の現状、原子力災害による避難の状況や県民の暮らしの実態、震災・津波災害の状況等、疑似体験も含め来館者が頭で理解し肌で感じられるようにするとともに、世界に向けFUKUSHIMAの記憶と記録をわかりやすく発信し、FUKUSHIMAに心を寄せ現状を理解する人材や企業を世代を超えて広げていく。
 - 広島や長崎のように、国内外から観光客や修学旅行・教育旅行・企業研修生が訪れる場となる。

【施設のミッション②】記録や資料の収集・保存（資料エリア）

- 散逸の抑制、後世への継承
 - 時間の経過とともに、世界初の甚大な複合災害による史上類を見ない遺構や遺物、文書・映像等の保存は急務。拠点施設の有無は散逸防止に寄与。

【施設のミッション③】調査・研究（研究エリア）

- 第一級の収集資料に集う研究者による調査・研究・発信
 - 全世界で“FUKUSHIMA”にしかない収集資料をもとに、様々な研究が惹起されることが想定され、かつ、関連する研究会やシンポジウムを通じた発信により、さらに全世界の災害研究・教育に寄与。



国立チェルノブイリ博物館



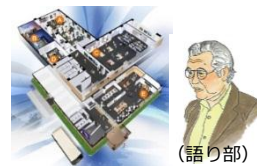
広島平和記念資料館



長崎原爆資料館



人と防災未来センター（兵庫）



山古志復興交流館「おらたる」
(語り部)

東京電力福島第一原発の廃炉に向けた取組の推移を正確かつリアルタイムな現状を発信

■ 事故直後の状況



■ 建屋カバーの設置



■ 4号機プール燃料取出し



各施設との連携・廃炉に向けた取組についても分かりやすく紹介

モックアップセンター



廃炉ロボット開発状況の紹介

放射性物質・分析施設



放射性物質に関する研究状況紹介

廃炉国際共同研究センター



廃炉技術等に関する共同研究状況紹介

原発被災市町村のそれぞれの復興のあゆみ、日常生活の変化を県内外に発信

【原発事故と避難指示】

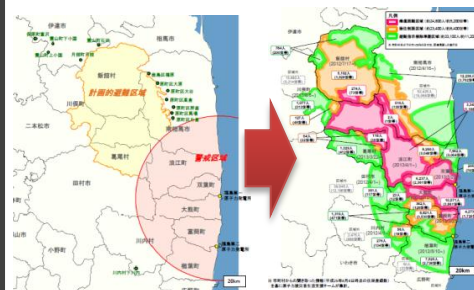
原子力発電との共生



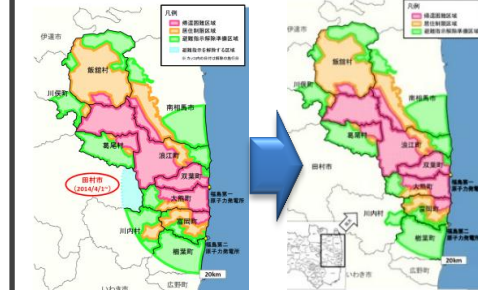
① 原子力発電所の事故



② 避難指示/立入制限



③ 避難指示の解除



震災以前

震災直後

震災1~2年

震災5年後へ

【人々のくらしの変化】

温暖な気候を活かした農林水産業を基幹とした豊かな暮らし



① 避難所でのくらし



あづま総合体育館避難所

② 仮設住宅での生活



③ 帰還後の生活



田村市都路「Domo(ど~も)」

アーカイブ施設への収蔵を検討すべき資料等のイメージ (原子力災害)

資料等のイメージ (順不同)

現物保存



災害対策本部設置の経緯等

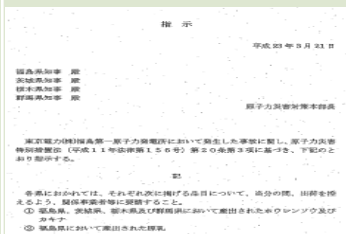


避難指示の経緯

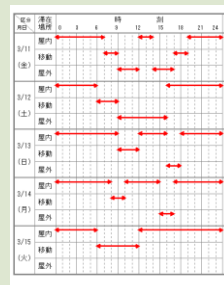
平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況調査 (第1361編)

被害状況	調査対象	調査結果
1.4.4	農産物	農産物の被害状況
1.4.5	畜産物	畜産物の被害状況
1.4.6	漁獲物	漁獲物の被害状況
1.4.7	水産物	水産物の被害状況
1.4.8	工業製品	工業製品の被害状況
1.4.9	建設資材	建設資材の被害状況
1.4.10	生活物資	生活物資の被害状況
1.4.11	文化財	文化財の被害状況
1.4.12	貴重品	貴重品の被害状況
1.4.13	その他	その他の被害状況

被害状況速報



農産物の出荷停止指示



県民健康管理調査の実施の経緯



放射能や原子力に関する本、雑誌の収録



原災避難の経緯等行政文書保管



警戒区域の看板



避難を余儀なくされた学校の再現展示



放射線分析器の実物展示

画像・音声等



水素爆発の映像



事故収束作業、廃炉・汚染水対策作業の状況



野生動物の状況



除染の状況



全量全袋検査等モニタリング状況



風評被害の状況(出典:NHK)



風評払拭の取組の状況



販売の回復の状況



事故原発への空中放水映像

アーカイブ施設への収蔵を検討すべき資料等のイメージ (地震・津波災害)

資料等のイメージ (順不同)

現物保存



震災の時刻に止まった時計 (富岡駅周辺)



解体新造する場合にも津波の到達位置表示



津波被災パトカー (再現して展示)



津波で破壊された交通標識の再現



伝統文化の実演展示



マンホール隆起や液状化の再現展示



海岸には津波到達位置表示



新地駅から乗客を警官が誘導して津波被災を免れた経緯



前線基地となったJヴィレッジの模型展示など

画像・音声等



小高中心街液状化倒壊等



請戸小学校の避難を語り継ぐ



県水産種苗研究所の津波破壊



かつてにぎわい地であった海の家 (双葉町)



伝統のお祭りの復活の記録 (相馬野馬追)



震災による建物破壊 (富岡駅前)



船等の大物は写真等で保管



南相馬萱浜で被災した子どもを痛んで泳ぐ鯉のぼり



防波堤等の被災及び復旧状況



小峰城石垣崩落等

原子力災害に関する第一級資料をもとに研究を行う研究者への場の提供と研究成果の発信

資料等の閲覧・貸与



研究者等による調査・研究



研究成果の発信・拡散



FUKUSHIMA
にシンパシー
を持つ人材や
企業の国内外
への広がり

1F
ガイダンス
ルーム



ガイダンスルーム [震災学習プログラム]
[所要時間30分~40分][予約制]
[プログラム1]
●「語り部」による震災時の体験談
[プログラム2](小中学生対象、平日のみ)
●センター研究員による防災セミナー

人と防災未来センター(兵庫)におけるセミナー

災害メモリアル施設が果たす役割

一中越、雲仙、奥尻島から東日本へー

中越、雲仙、奥尻島の災害メモリアル施設を事例に、どのようにして地域との合意形成を進めその地に立脚してきたのか、災害メモリアル施設が担う役割、残し伝えるものを検証し、災害メモリアルについて検討が始まる東日本大震災の被災地へ向けて発信したいと思います。

日時：平成27年2月3日(火) 13時30分~17時00分(13時間場)

会場：長岡震災アーカイブセンター 多目的ホール
長岡市大手道2-6 フェニックス大手イースト2F

第1部「中越メモリアル回顧」より <13:30~14:30>

平井 邦彦(公益社団法人中越防災安全推進機構顧問)

第2部 自然災害を語り継ぐ「場所」とその「役割」 <14:40~15:40>

杉本 伸一(三陸ジオパーク推進協議会上席ジオパーク推進員)

定池 祐季(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任助教)

内 城 仁(岩手県大槌町総合政策部部長兼総合政策課課長)

パネルディスカッション <15:50~17:00>

コーディネーター 澤田 雅浩(長岡震災アーカイブセンター長)

【お申込み、お問い合わせ】

公益社団法人 中越防災安全推進機構 長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」
〒940-0062 新潟県長岡市大手道2-6 フェニックス大手イースト2F
TEL: 0258-39-5525 FAX: 0258-39-5526
E-MAIL: kiokumirai@cosss.jp URL: http://c-marugoto.jp/